

## 『映像きもの学2007』 - 全26巻

上林 哲也      奥   明香      久保 徳晃      清水 啓志

武田めぐみ      西上 恵子      藪   朋果      小寺 由美

(深井 勉ゼミ)

### 1. 「きもの学」講座の趣旨

きものは、日本の歴史と風土を背景に、文化・芸能・行事と密接な関わりを持ちながら発展を遂げてきました。即ち、日本の豊かな自然と人の共生を重んじる生活文化の下で、鋭い感性と美意識に支えられ、世界に類を見ない優雅にして繊細な世界を創出してきました。作家や職人の断えまない研鑽によって生み出された多彩な意匠や染織技術は、正しく日本文化そのものと言えます。この講座では、きものときもの文化にまつわる染織の世界を通して、日本文化に関心を持っていただくことを目的に、日本を代表する染織作家、研究者、伝統文化、流通等でご活躍の方々を講師にお迎えし、多面的に学んで頂くことを目的に開講します。

(2007 『きもの学』実施要綱)

### 2. 「きもの歴史」

日本のきものは呉服とも呼ばれています。それは3世紀中頃に中国の揚子江南部にあった、胸元で襟合わせをする呉の国の衣服が日本に伝えられ、この垂領式の呉服を日本の衣服の起源とするからです。しかし、古墳時代、垂領式の衣服は、まだ右前と左前の双方の襟合わせが行われていて、それが右前（現在のよう形）になったのは、奈良時代のことだといわれます。また、それ以前の飛鳥時代から、儀式や官吏の服制が、文化の進んだ中国・隋の服制に倣って行われたしました。その形式とは、北の民族様式を主体としながら南の様式を混成したもので、下衣に南の垂領式衣服を着込んで、その上に北の威厳を示した大きな盤領式の長袖外衣と袴を着重ねたものです。ただ、袖口は閉じずに広く大きくして、南の権威の表現をも外衣に取り入れました。また女性は、南の伝統的な垂領衣を誇張した大型衣服を、何枚の着重ねて威厳の象徴としました。以来、日本では、この北と南の折衷様式の衣服が続いて着用され、それが儀礼化と誇張化して、平安時代の公家貴族が用いた、いわゆる有職装束が完成されていきました。男性の袍や直衣、狩衣、また女性の十二単と呼ばれる唐衣裳や小袷などの絹織物の紋織衣装がそうです。しかし、一般人は麻製の水干や下衣である小袖姿といった簡素な衣服で日常生活をしていました。武家が中心となった鎌倉時代以降、武士達はそれまでの公家の格式張った形式的な盤領衣装から、垂領の直垂、素襖と呼ばれる行動的な衣装を公的なものとして昇格させました。また武家女性も留袖で詰袖の小袖を数枚重ねて、その上に打掛の外衣を羽織って略式の礼装とするようになりました。しかし、男女ともに、ふだんは外衣を着けずにいることが多くなり、次第に下衣であった小袖のみが表面に現れ、そこに、外衣としての装飾が施されるようになりました。最下衣だった小袖は模様染を施され、しだいに派手な小袖が成立していき、室町後期には、男女ともに模様小袖姿が当たり前のものとして台頭していきます。桃山時代頃には小袖があらゆる階級を通じて外衣化していきました。桃山時代の奔放な気風が残っていた江戸時代初期は、まだ衣服の制に厳しい統制はなく、社会情勢に適応した各々のきものが発展した時代でありました。17世紀後半頃に、幕府の体制が堅固なものになるに従って、衣服の制も身分や職種に見合った厳格な体制が確立していきます。一方、女性の間では、年中行事や祭礼、社交の場もそれに見合った晴衣装が着用され、今に伝

わるきものの模様の多くが年中行事に関する季節感や、それを寿ぐ吉祥模様を題材にしていることの源泉が、こうしたところにあります。平穏な太平の世に生活を楽しみ、また儀式や儀礼が広く民間になじむにつれて、晴着である社交儀礼の模様小袖が、次第に常の衣装と混同され流通していきます。

きものの加工技法も江戸時代前期には、海外貿易による更紗染などの影響をうけ、正平染や友禅染のような多彩な描き絵染が生まれます。また、鹿の子絞りや刺繍、型染や小紋染、摺り染、摺り箔の模様染加工や織物も唐織に金襴織などの各種技法が艶やかに行われ、今日あるきもの加工技術の全てが展開されていったと言えます。こうして、江戸時代の衣服は小袖という典型的な形式に統一され、なおも多様な装飾様式を生んでいきました。

近代以降のきものは江戸時代の武家衣装を手本として発展してきたため、織物の打掛、染め模様のきものと、織り帯及び刺繍帯が儀礼用として認められ、平織りのきものは高価であってもお洒落用にしか利用できないといわれてきました。しかし、近年はそんなことにとらわれず、日本人の歴史ある民族衣装は、いつでも誇らしげに着られる衣装として、新しく変わりつつあるといえます。

(全日本きもの振興会『きもの文化検定公式教本』から抜粋)

### 3. 「きものの特徴」

きものは着物であり、着るものの意味をもつことから考えればすべての衣服をさすことになるが、「キモノ」と表記した時は、国際語として和服の代名詞ともなり、一人歩きを始めている。

民族服の中でも特に美しい和服の内容は、多様であり複雑でもあるが、きもののイメージは女子では長そでのついた前合わせの長着に帯を締めた姿であり、男子では羽織袴姿といわれている。

その組み合わせの衣服は、江戸時代に完成、定着した小袖といわれるもので貴族から庶民までその用いられ方は異なっていたが日本民族全体がかかわり、日本風土の中で生まれ作り上げられてきたもので、現代では長着と呼ばれている。

その構成は、着る人が両手を水平にあげた肩から両腕にかけて裂地をかけ垂らした裂どうしをはぎ合わせて形作るので、おのずから、直線的で平面なものとなり、着ることによって立体化する特徴が生まれる。また、たたむと平らなる。このように布地を主体にした衣服形態は、一般的に、平面構成の衣服といわれており、各種民族服に多く見られる。

また、形がほぼ一定なので素材の布地やその染色の意匠、デザインの美しさが魅力の大きな要因となっており、和服も例外ではない。

また、「きもの」は着衣基体の人体から遊離した寛衣として扱われているが、これは前合わせ衣服の着装の自由さ、えり元のゆるやかさ、そで口の広さなどから分類されている。この寛衣が日本の衣服として伝承されてきた要因には気候風土もあげられる。

日本の風土は、季節風に左右され、夏季は海洋性気候により高温多湿であり、冬季には寒気を帯びた大陸風の影響を受ける。即ち夏の蒸し暑さには通気性によい衣服として、また冬の寒さには、ほぼ定形であるための重ね着が、気候風土へ対応したため、長年にわたり日本の衣服として親しまれてきたものであろう。

(『基礎きもの』白水社)

2007「きもの学」講義内容  
8月28日(火)～9月15日(土)

火曜日 8/28	水曜日 8/29	木曜日 8/30	金曜日 8/31	土曜日 9/1
<p>きもの概念① 「日本人の衣生活ときもの」</p> <p>日本きもの学会 常任理事 「日本のきもの」 編集・発行人 清田のり子</p>	<p>きもの最前線 「きものカジュアル文化」</p> <p>(社)全日本きもの振興会 副会長 榊やまと 代表取締役社長 矢嶋孝敏</p>	<p>きもの概念④ 「女性のきもの」</p> <p>日本きもの学会 理事 東洋ファッションデザイン専門 学校／東洋きもの専門学校 校長 樹下林子</p>	<p>きもののできるまで① 「糸について」</p> <p>きもののできるまで② 「白生地について」</p> <p>ポリテクカレッジ京都 元講師 芋田機業場 代表者 芋田 薫</p>	<p>きもののできるまで③ 「織のきもの」</p> <p>日本きもの学会 常任理事 榊染織と生活社 取締役編集顧問 富山弘基</p>
	<p>きもの概念③ 「日本の服です」</p> <p>榊新装大橋 代表取締役社長 大橋英士</p>	<p>きもの概念⑤ 「男のきもの」</p> <p>日本きもの学会 常任理事 着物伝承家 早坂伊織</p>		<p>きもののできるまで④ 「西陣の帯」 泰生織物(株) 専務取締役 酒井貞治</p>
9/4	9/5	9/6	9/7	9/8
<p>きもののできるまで⑤ 「染のきもの」</p> <p>倉敷芸術科学大学 元教授 生谷吉男</p>	<p>きもののできるまで⑦ 「和裁」</p> <p>(社)日本和裁士会 顧問 牧野俊一</p>	テスト	<p>きもの成立と展開① 「飛鳥・奈良・平安時代」</p> <p>きもの成立と展開② 「鎌倉・室町・ 桃山・江戸時代」</p> <p>共立女子大学 教授 長崎 巖</p>	<p>きもの成立と展開③ 「明治・大正・昭和時代」</p> <p>(財)西陣織物館 顧問 藤井健三</p>
<p>きもののできるまで⑥ 「京友禅の魅力」</p> <p>(社)日本染織作家協会 理事長 五代田畑喜八</p>	<p>きもの概念② 「きもの歴史」</p> <p>日本きもの学会 理事 日本和装士会 会長 市田ひろみ</p>		<p>きものと文化① 「和歌の世界」</p> <p>(財)冷泉家時雨亭文庫 常務理事 冷泉貴実子</p>	
9/11	9/12	9/13	9/14	9/15
<p>染織の魅力① 「有松・鳴海絞」</p> <p>愛知県絞工業組合 理事長 竹田嘉兵衛</p>	<p>染織の魅力② 「大島紬」</p> <p>榊夢おりの郷 代表取締役 南 祐和</p>	<p>実地研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎ (株)川島織物</li> <li>◎ 西陣織会館</li> <li>◎ 友禅美術館 「古代友禅苑」</li> <li>◎ 丹後研修</li> </ul>	<p>染織の魅力③ 「草木染」</p> <p>草木染研究所柿生工房 主宰 山崎和樹</p>	<p>きもの市場調査の解説</p> <p>京都学園大学 経済学部教授 尾崎タイヨ</p>
			<p>きものと文化② 「いけばなの世界」</p> <p>華道家元池坊 次期家元 池坊由紀</p>	<p>2007きもの学まとめ</p> <p>日本きもの学会 会長 京都学園大学 学長 波多野 進 他</p>

## きもの概念 「日本人の衣生活ときもの」

日本きもの学会 常任理事

「日本のきもの」 編集・発行人 清田のり子

人は何のために衣服を着るのでしょうか？身体の保護のため、あるいは機能性だけでは片付けられないようです。明治維新から140年、日本人の近代化の象徴として取り入れられた洋服はすっかり定着しましたが、日本人のアイデンティティが問われる昨今、「きもの」への関心も深まっています。衣服は本来風土と歴史に根ざしたもので、日本人の衣服としての「きもの」を考えてみましょう。

## きもの最前線 「きものカジュアル文化」

(社) 全日本きもの振興会 副会長

(株) やまと 代表取締役社長 矢嶋 孝敏

きものには、「訪問着のようなフォーマル的なものと、紬のようなカジュアル的なものがある。」と言われています。しかし、コーディネートとスタイリング、つまり「着方」によって、同じきものが、フォーマル的にも、カジュアル的にも楽しめることを、きものの特徴を対比させながら解説します。

## きもの概念 「日本の服です」

(株) 新装大橋 代表取締役社長 大橋 英士

ファッションとしてのきもの、モードとしてのきものをコンセプトに、撫松庵(ぶしょうあん)を発表し、その後、きものリサイクルショップ「ながもち屋」を始める等、常に新しい時代の流れを創り人気を博しています。現代人の視点からきものファッションとモードについて考察します。

## きもの概念 「女性のきもの」

日本きもの学会 理事

東洋ファッションデザイン専門学校/東洋きもの専門学校 校長 樹下 林子

女性のきものや帯には、いろいろなきものの種類やTPOがあります。また、きものは、どのようにして出来ているのか。どのようにして着るのか。その仕組みを実際に見ながら基本を学びます。

## きもの概念 「男のきもの」

日本きもの学会 常任理事

着物伝承家 早坂 伊織

「男のきもの」の注目度がますます高まっています。和文化に親しむにも、日本人としての心に触れるにも、「きもの」は日本文化共通の財産です。「きもの基本」に対する考え方、文化、教養実技など多彩な内容で「男のきもの」を学びます。

## きもののできるまで 「糸について」

## きもののできるまで 「白生地について」

ポリテクカレッジ京都 元講師

芋田機業場 代表者 芋田 薫

白生地の代表的製品である丹後ちりめんは、京都府北部の丹後半島一帯で織られています。この白生地から、華麗多彩な友禅染めなどの「きもの」が花ひらきます。きもの原点である「蚕から繭から生糸」「生糸を加工した白生地」について学びます。

きもののできるまで 「織のきもの」

日本きもの学会 常任理事

(株) 染織と生活社 取締役 編集顧問 富山 弘基

現代日本で伝承されている主要な「織のきもの」の地域分布とその種類・歴史について長年の研究に基づき解説します。

きもののできるまで 「西陣の帯」

泰生織物(株) 専務取締役 酒井 貞治

西陣織は、20人余りの頭脳と技が集って「分業制」によって創り出されます。その工房のあらましと、特に帯の文様がどのように生まれ、帯に織り込まれていくのか、その流れを学びます。

きもののできるまで 「染のきもの」

倉敷芸術科学大学 元教授 生谷 吉男

浸染、型染、手描染等の染法、染色物の性能、堅ろう度、染色の原理等、後染によるきもの染色法を平易に解説し、きものとして性能を学びます。

きもののできるまで 「京友禅の魅力」

(社) 日本染織作家協会 理事長 五代田畑喜八

わが国の模様染の中でも、京友禅は現在でも大きな魅力を秘めています。その魅力の根源を歴史と時代背景、他の生活文化等との関連をたどりながら「今なぜ京友禅なのか」を田畑家に伝わる「華主」という言葉の意味と共に考えていきます。

きもののできるまで 「和裁」

(社) 日本和裁士会 顧問 牧野 俊一

「無駄のない布使い」「誰にも仕立てられる」「美しいこと」を軸とした和裁は、横縫い(並縫い)を中心とした日本独特の運針技法と直線を原則とした裁ち方の数々を生み出し、自在なりフォーム・リメイクを可能にして伝えられている「和裁」について学びます。

きもの概念 「きもの歴史」

日本きもの学会 理事

日本和装師会 会長 市田ひろみ

きものを知るには、まずはきもの歴史を知ることです。私たち日本人の祖先は時代ごとにどのような衣服を着ていたか。

今日に至るきもの歴史を概観する中から、きもの価値を再発見してみましょう。

きもの成立と展開 「飛鳥・奈良・平安時代」

きもの成立と展開 「鎌倉・室町・桃山・江戸時代」

共立女子大学 教授 長崎巖

日本のきものは、世界的にも特異な形態と装飾が見られる衣服だといえます。どうして、このような独特な衣服様式が生まれたのでしょうか。また、どのような歴史があるのでしょうか。染織品や衣服の歴史・美しさについて多面的に学びます。

## きものの成立と展開 「明治・大正・昭和時代」

(財) 西陣織物館 顧問 藤井 健三

近代きものの展開とデザインの移り変わりを明治・大正・昭和の時代背景とともに解説します。

## きものと文化 「和歌の世界」

(財) 冷泉家時雨亭文庫 常務理事 冷泉貴実子

冷泉家は歌聖と呼ばれた藤原俊成・定家を祖とし、和歌の家系として歌道を今に伝えています。日本の古典文様の元となる美意識は、和歌の世界と共通するものです。その和歌を尋ねて、日本の季節美と日本人の美意識を探ります。

## 染織の魅力 「有松・鳴海絞」

愛知県絞工業組合 理事長 竹田嘉兵衛

「有松・鳴海絞」は、今から約400年前慶長15年(1610)、地域(名古屋市緑区鳴海町・有松町・大高町)興しが始まりで、竹田庄九郎を始め先人たちのたゆまぬ努力の結果、多いなる繁栄をもたらしました。

今日、5回に亘る「国際絞り会議」を通じて、新たな脚光を浴びる「有松・鳴海絞」について学びます。

## 染織の魅力 「大島紬」

(株) 夢おりの郷 代表取締役 南 祐和

奄美の島々の美しい自然から生まれた天然染で、手織の大島紬。そのアート性は全世界に類を見ない精巧な緋織と泥染にあると言われています。気の遠くなるような数々の行程を経て出来上がる大島紬には、南の島の太陽と大自然、そして島人の想いが息づいています。その大島紬の歴史・現状・工程について学びます。

## 染織の魅力 「草木染」

草木染研究所柿生工房 主宰 山崎 和樹

草木染は植物の葉・枝・幹・樹皮や根などに含まれている色素を抽出し、糸や布を染める染色法です。その抽出液には複数の色素やいろいろな成分が含まれ、染色の際に染着し、草木染独特の色や風合いが生まれ、人の心を和ませる柔らかな色合いに特徴があります。時を超えて愛される天然染色の歴史と染色技法、草木染の色彩的特徴と風合いについて解説します。

## きものと文化 「いけばなの世界」

華道家元池坊 次期家元 池坊 由紀

いけばな池坊の500有余年の歴史は、花や草花に心を感じ、真実をきわめ続けた歴史。「心美しければ表現される形も美しい」いけばなを通し養われた豊かな心は、暮らしを潤し生きる喜びにまで昇華します。いけばなを学ぶことで慈愛の心を育てること、自然賛歌、人間愛への高まりが美しい文化を創造します。いけばなの世界から見た「和文化」について学びます。

## きもの市場調査の解説

京都学園大学 経済学部教授 尾崎タイヨ

2007きもの市場調査のデータから見たきもの業界の実体を様々な観点から詳しく解説します。また、調査を通じて、きもの業界が目指す方向性、販路の開拓、市場の創出を探ります。

## 2007きもの学まとめ

日本きもの学会 会長

京都学園大学 学長 波多野進 他

キーノートスピーチできもの学講座の総括を行い、ゲストによる自由な語り合いとともに、「きもの / その未来」を予測します。

## 「きもの学」の中継・録画スタッフ



中継時のカメラマン



講義風景



大学での中継リハーサル風景

## &lt;中継・録画スタッフメンバー&gt;

2004M015	上林 哲也	2004M072	武田めぐみ
2004M027	奥 明香	2004M092	西上 恵子
2004M044	久保 徳晃	2004M118	藪 朋果
2004M058	清水 啓志	2004M551	小寺 由美

## &lt;「きもの学」の撮影にあたって&gt;

きものを撮影するにあたり、大学で機材の操作、カメラワークのリハーサルを行った。その成果もあって講義期間中、特に問題なく撮影を進めることができた。講義では、きもの歴史、特徴だけでなく、ファッションショーを通して着こなしについても理解ができ、大変有意義であった。

## &lt;制作スケジュール&gt;

## リハーサル

2007年8月22日(水), 8月24日(金)

朋文館 1階ロビー

## 中継撮影

2007年8月28日(火) ~ 9月6日(木) 基礎講座

キャンパスプラザ京都4階 第2講義室

2007年9月7日(金) ~ 9月15日(土) 発展講座

キャンパスプラザ京都4階 第2講義室

## 編集作業 ~ 完成

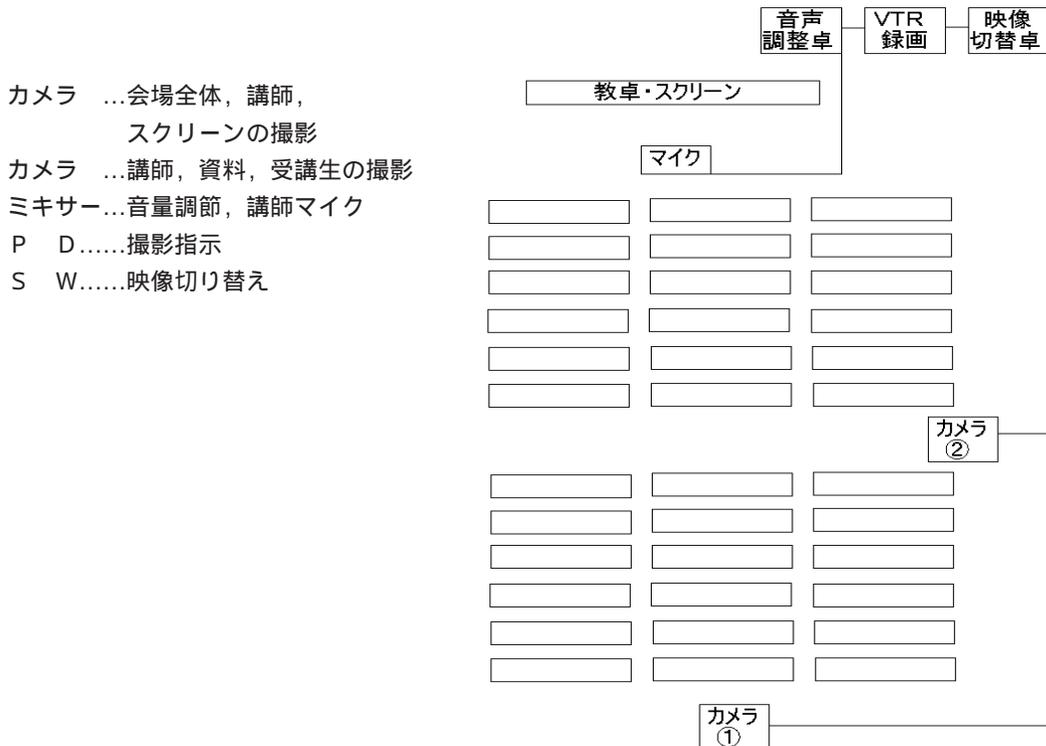
2007年9月 ~ 2008年1月

朋文館1階編集室, 2階コンピュータ教室にて編集作業

マルチスタジオにてテロップ作成, ミックスダウン作業

資料収集, キャプション原稿作成, 作品完成

## &lt;カメラ及びマイクロフォンの配置とその役割&gt;



## 作品概要

### 1. きもの概念

日本きもの学会 常任理事  
「日本のきもの」編集・発行人 清田のり子

#### 「日本人の衣生活ときもの」



あなたは1年に何回、きものを着ますか？という疑問から始まったこの講義ですが、明治維新から140年、わたしたちの日常生活はすっかり洋服が定着しましたが、一方では、昨今、「きもの」への関心が深まっています。その代表としては夏に着る「ゆかた」です。進化をしている「ゆかた」から考え、現代にきものを着る意味を一緒に考えました。

### 2. きもの最前線

(株)全日本きもの振興会 副会長  
(株)やまと 代表取締役社長 矢嶋 孝敏

#### 「きものカジュアル文化」



きものには3つの文化があります。「創る文化」「売る文化」「着る文化」。3つの文化を考えながら、きもの着こなしについて考えていきました。きものには、フォーマルな場所での着こなしができますが、カジュアルな着こなしもできる楽しみをきものの特徴と対比させながら考えました。

### 3. きもの概念

(株)新装大橋 代表取締役社長 大橋 英士

#### 「日本の服です」



ファッションとしてのきもの、モードとしてのきものをコンセプトに、蕪松庵(ぶしょうあん)発表し、その後、きものリサイクルショップ「ながもち屋」を始める等、常に新しい時代の流れを創り人気を博しています。現代人の視点から、きものファッションとモードを考察しました。

## 4. きもの概念

日本きもの学会 理事  
東洋ファッションデザイン専門学校 / 東洋きもの専門学校 校長 樹下 林子

## 「女性のきもの」



日本の四季折々に見られる美しい自然からデザインされた着物の染め・織り・模様などは日本人ならではの和の文化が凝縮されています。和の文化を生かしながら、TPOにあわせたきものコーディネートからきもの仕組みなどを考え、実際に見ながら基本を学んでいきます。この講義ではファッションショーの形式で多彩なきもの着こなしを見ました。

## 5. きもの概念

日本きもの学会 常任理事  
着物伝承家 早坂 伊織

## 「男のきもの」



きものといえば、女性というイメージが先行していますが、最近では「男のきもの」にも、注目を集めています。この講義では、「きもの基本」に対する考え方や文化や教養実技など多彩な内容で「男のきもの」を考えました。

## 6. きものできるまで

ポリテクカレッジ京都 元講師  
芋田機業場 代表者 芋田 薫

「糸について」  
「白生地について」



白生地の代表的製品である丹後ちりめんができるまで、蚕から生糸ができるまでの細かな話から、生糸から白生地ができるまでの工程を教わりました。そして、丹後ちりめんの白生地の種類や繭など実物を見ながら、丹後ちりめんについて学びました。

## 7. きもののできるまで

日本きもの学会 常任理事  
 (株) 染織と生活社 取締役編集顧問 富山 弘基

## 「織のきもの」



きものにおける大切な分野である「織り」について学びました。現代日本で伝承されている主要な「織りきもの」の地域分布とその種類・歴史について長年の研究に基づいて解説していただきました。

## 8. きもののできるまで

泰生織物 (株) 専務取締役 酒井 貞治

## 「西陣の帯」



京都を代表するきもの産業の一つである西陣織について学びました。西陣織は「分業制」であり、20人余りの頭脳と技が集まって創り出されています。西陣織の工程概要と、特に帯の文様がどのような工程を経て織り込まれていくのか、流れに沿って学びました。

## 9. きもののできるまで

倉敷芸術科学大学 元教授 生谷 吉男

## 「染のきもの」



きものを創る立場からではなく、着る立場からやさしい染色の仕組み、様々な染色の技法とその特徴、また、仕上げ加工や染色堅牢度などについて学びました。

## 10. きもののできるまで

(社) 日本染織作家協会 理事長 五代田畑喜八

## 「京友禅の魅力」



日本を代表する染物である「京友禅」なぜ京都で発達したのかなど、「京友禅」の魅力に迫りながら、その根源を歴史、時代背景や生活文化などの関連をたどりながら、「今なぜ京友禅なのか」を田畑家に伝わる「華主」という言葉の意味とともに考えました。

## 11. きもののできるまで

(社) 日本和裁士会 顧問 牧野 俊一

## 「和裁」



和裁は無駄のない布使いができ、誰にでも仕立てることができ、美しいことを軸にしています。そして、横縫い（並縫い）を中心とした日本独特の運針技法と直線を原則とし裁ち方の数々を生み出し、自在なリフォーム・リメイクを可能にして伝えられています。和裁の技法と女性のきもの・男性のきもの仕立ての違いについて学びました。

## 12. きもの概念

日本きもの学会 理事

日本和装師会 会長 市田ひろみ

## 「きもの歴史」



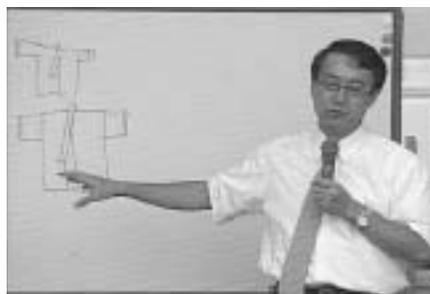
世界各国には様々な民族衣装があります。ライフワークとして、100カ国以上を自らの足で歩き、調査・収集・研究を始めて30年以上になります。世界各国の民族衣装と生活や文化の関わりから、日本のきものに迫りました。

## 13. きものの成立と展開

共立女子大学 教授 長崎 巖

「飛鳥・奈良・平安時代」

「鎌倉・室町・桃山・江戸時代」



日本のきものは、世界的にも特異な形態と装飾が見られる衣装だといえます。どうして、このような独特な衣服様式が生まれたのでしょうか。きものが時代によって変化してきた経緯などを交えて、染織品や衣服の歴史・美しさについて多面的に学びました。

## 14. きものの成立と展開

(財)西陣織物館 顧問 藤井 健三

「明治・大正・昭和時代」



明治・大正・昭和時代に流行したきものの着方や時代背景によって変わっていった着物のデザインについて、解説していただきました。

## 15. きものと文化

(財)冷泉家時雨亭文庫 常務理事 冷泉 貴実子

「和歌の世界」



歌聖といわれた藤原俊成・定家を祖とする冷泉家は和歌の家として歌道を現代に伝えています。冷泉家の歌道の中にある日本の四季折々の美と現在まで続く年中行事を、古今和歌集や新古今和歌集の和歌を見ながら日本の美意識を探りました。

## 16. 染織の魅力

愛知県絞工業組合 理事長 竹田嘉兵衛

## 「有松・鳴海絞」



「有松・鳴海絞」は、今から約400年前の慶長15年（1610）、地域（名古屋市緑区鳴海町・有松町・大高町）興しが始まりで、竹田庄九郎を始め先人たちのたゆまぬ努力の結果、大いなる繁栄をもたらしました。有松・鳴海絞の細やかな作品を見ながら、成り立ちや技術について学びました。

## 17. 染織の魅力

(株) 夢おりの郷 代表取締役 南 祐和

## 「大島紬」



奄美の島々の美しい自然から生まれた天然染で、手織りの大島紬。奄美の独特の自然環境や文化からみる大島紬にこめられた島人の思いや、気の遠くなるような数々の工程を経て出来る大島紬について、楽しい奄美の島唄を交えながら学びました。

## 18. 染織の魅力

草木染研究所柿生工房 主宰 山崎 和樹

## 「草木染」



草木染は植物の葉・幹・枝・樹皮や根などに含まれている色素を抽出し、糸や布を染める染色法です。草木染の歴史は古く奈良時代から始まっています。時を超えて愛されている草木染の染色技法、草木染の色彩的特徴と風合いについて学びました。

## 19. きものと文化

華道家元池坊 次期家元 池坊 由紀

## 「いけばなの世界」



500有余年の歴史を持ついけばなは、仏前供花から始まり、時代の移り変わりの中で常に人の心と共にあり続けてきました。互いにゆずりあい、生かしあう日本人の精神性についていけばなを通して探りました。

## 20. きものの市場調査の解説

京都学園大学 経済学部教授 尾崎 タイヨ



社会環境が変化する中できものの消費や販売の変化について、2007きもの市場調査のデータから見たきもの業界の実態を様々な観点から詳しく解説。現在、行われているきもののインターネット販売など、これからのきもの業界が目指す方向性や販路の開拓、市場の創出を考えていきました。

## 21. 2007きもの学まとめ

日本きもの学会 会長

京都学園大学 学長 波多野 進 他



キーノートスピーチで、きもの学講座の総括を行いました。ゲストによる自由な語り合いとともに、「きもの / その未来」予測しました。

## 終わりに

「きもの学」講義の撮影に参加し、複雑且つ高度な技術力を必要とする中継・録画に取り組むことが出来たことは、貴重な経験であった。事前に中継機材の操作、カメラワークのリハーサルを2回行ったこともあり、撮影期間中はほぼスムーズに進められた。しかし、日によっては、講義開始までの準備時間が少ない時もあったが、それぞれが役割分担を確認し、カメラ担当は素早く各配置にセッティングし、ディレクター担当は時間までに準備が完了するように指示し、ミキサー担当はマイクを設置し音量調整し、スイッチャー担当はカメラから送られてくる映像の色や明るさの調整などに集中して中継録画を行うことが出来た。

また、ただ講義を撮影するだけでなく、「きもの」の歴史、魅力を改めて認識するとともに、8人のメンバー全員で一つのものを作り上げる喜びとチームワークの重要性を実感した。一方、編集においては、講義を3分ほどにまとめるダイジェスト版の制作に時間がかかり、技術的にもスムーズに編集できない部分も多々あったことが反省点である。

## 謝 辞

この映像「きもの学」の制作にあたり、本学経済学部・大西辰彦教授をはじめ、社団法人・全日本きもの振興会と「きもの学」講師の先生方、大学コンソーシアム京都の関係各位にご指導、ご協力いただいたことに感謝と御礼を申し上げます。

## 引用・参考文献

木野内清子 金谷喜子 呑山委佐子 都築昌子 1987年 『基礎きもの』 白水社  
全日本きもの振興会 2007年 『きもの文化検定公式教本』 アシエット婦人画報社  
2007 『きもの学』 実施要綱